



〈 編集・発行 〉

一般社団法人 **東京都港湾振興協会**

〒135-0064 東京都江東区青海2-4-24
青海フロンティアビル20F
TEL. 03-5500-2585 FAX. 03-5500-2589

平成25年

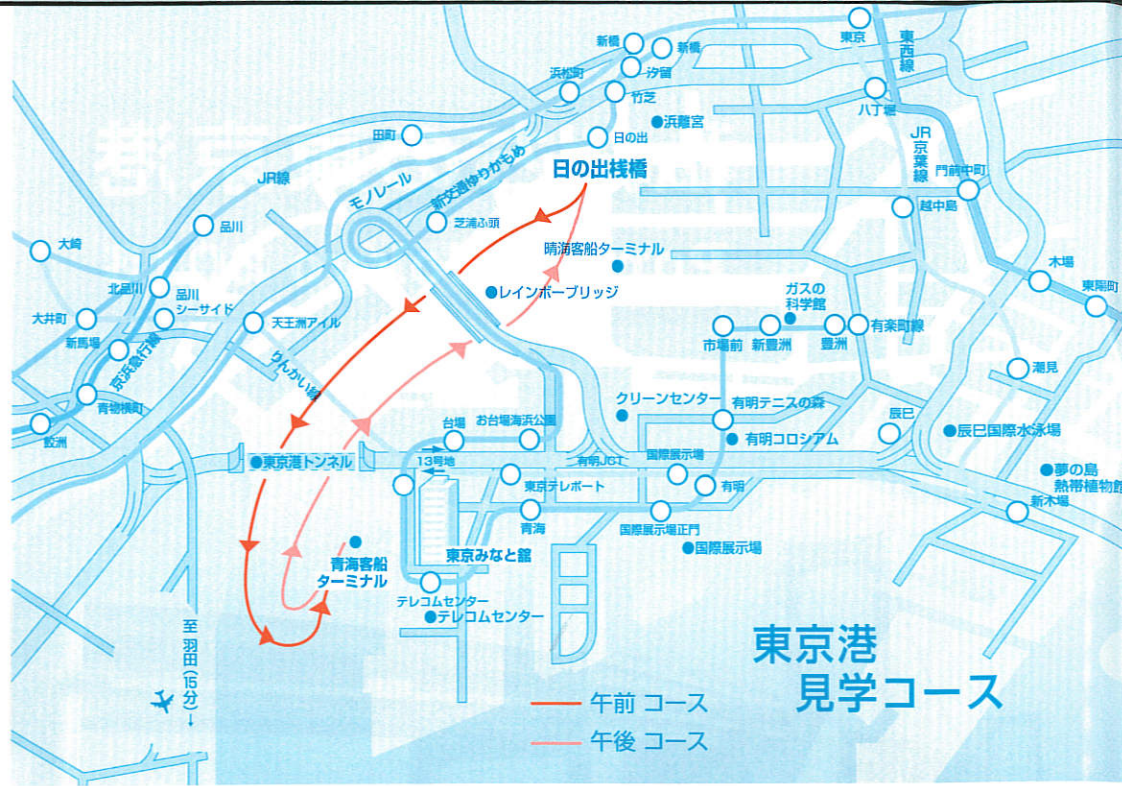
私たちの東京港

Port of Tokyo 2013



東京港は私たちの港です
Port of Tokyo is our seaport.

Supported by  **日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION**



とみん 1. 都民のくらしと東京港

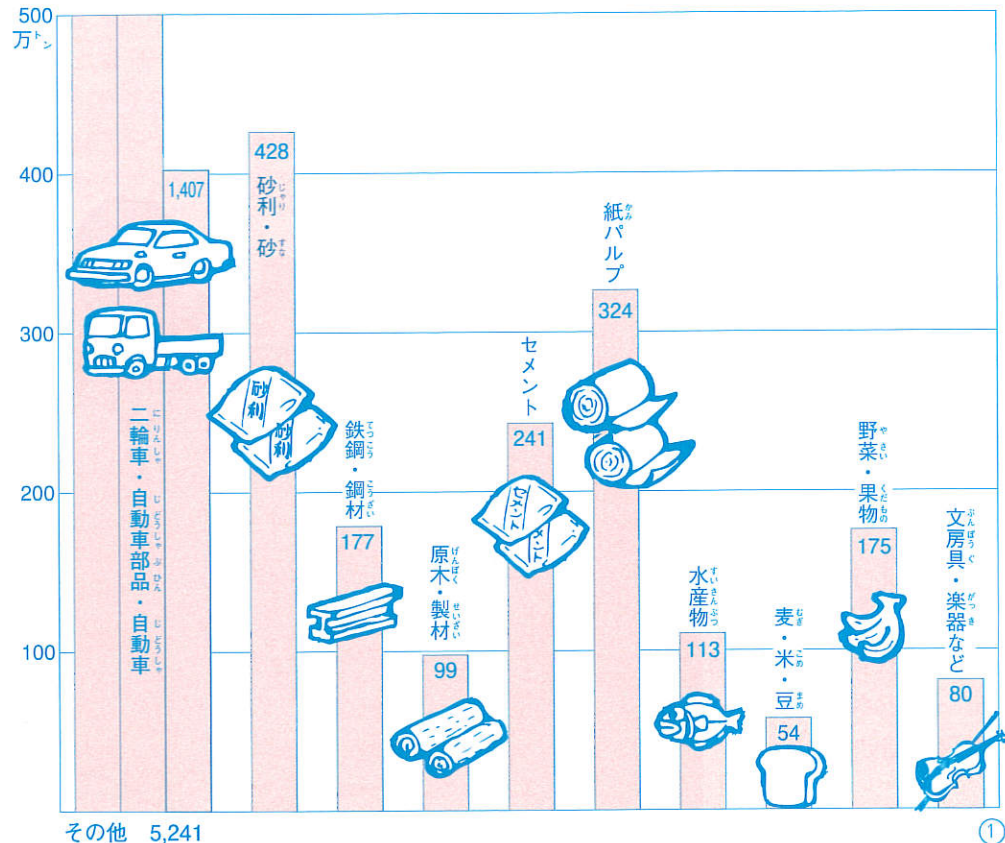
東京港は、わたしたち都民の毎日の生活に必要な、小麦・水産物・野菜・くだもの・紙・木材などの貨物が入ってくる大切な港です。また都内やその周辺で生産された機械類・加工食品・おもちゃなどが東京港から積み出されています。また、東京港に広がる埋立地を利用して、うるおいとゆとりのある東京の街づくりを進めています。



▲社会見学船の海上バスの一例

(1) 東京港で取り扱ったおもな貨物

取扱い総数 8,339万トン (平成23年)



もくじ

1. 都民のくらしと東京港	1
(1) 東京港で取り扱ったおもな貨物 (2) 輸入食品と東京港	
2. 世界と結ぶ東京港	4
(1) 世界と結ぶコンテナ航路網 (2) 東京港で見る外国船	
3. 全国と結ぶ東京港	6
4. コンテナについて	7
(1) コンテナができる前 (2) コンテナとは… (3) コンテナ船	
5. 東京港のいろいろな施設やそこで働く人々	8
(1) 荷さばき施設や保管施設 (2) 東京港とさまざまな役所の仕事 (3) 船の入出港と働く人々	
6. 東京港のいろいろな船	12
7. 東京港の位置・歴史	13
(1) 東京港の位置 (2) 東京港の歴史 (3) 東京の埋立地	
8. 私たちの東京港	15
(1) 臨海副都心 (2) レインボーブリッジ (3) 新交通ゆりかもめ (4) 晴海客船ターミナル (5) 竹芝ふ頭 (6) 日の出ふ頭 (7) 芝浦ふ頭 (8) 発展するコンテナふ頭 (9) 広がる海上公園	
9. 見学施設案内	21
東京みなと館	

(2) 輸入食品と東京港

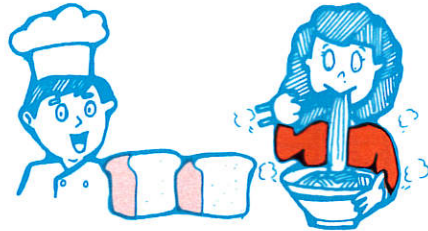


東京港で扱う貨物の中でも、わたしたち都民の毎日の生活にとって大切な食料品の多くは外国からの輸入でまかなわれています。

● 麦・豆類

わたしたちが、食べているパンやうどん、お菓子などを作る小麦粉の原料は小麦です。この小麦は、カナダ、アメリカ、オーストラリアの国々から運ばれてきます。その量は、およそ28万トンにもなります。

豆類やとうもろこし、米などは、13万トン入りました。豆類の中の大豆は、とうふやなっとう、みそになります。



● 魚介類

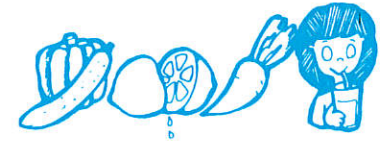
いか、えび、まぐろなど、魚の大部分が冷凍魚として港につきます。年間の取扱いは約113万トンですが、そのうち、約94万トンは輸入品です。

輸入される種類としては、アフリカの大西洋側のカナリヤ諸島付近でとれるいかやまぐろ、インドネシア・スペインからはえび、アメリカやカナダからは数の子・いくらなどが運ばれてきます。



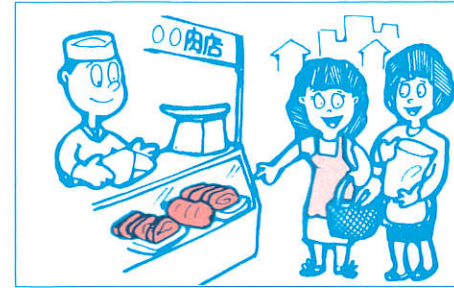
● くだもの・野菜

バナナ・グレープフルーツ・オレンジ・レモンなど約164万トンが、アメリカ、フィリピン、台湾などから運ばれてきます。



● 肉類

牛肉や豚肉などの畜産品は、オーストラリア・アメリカ・カナダ・ドイツ・台湾などから約105万トン輸入されています。これらの肉類は、ハムやソーセージなどに加工されたりして、肉屋さんの店に並べられています。



● 砂糖・飲料水・その他の食品

東京港には、塩や砂糖を専門に取り扱う店頭や上屋（船で運ぶ品物を短期間保管したり、荷さばきするための建物）があり、飲料、水、約102万トン、その他製造食品など248万トン、砂糖約4万トンが運びこまれています。



そのほか、のり・ところてんは韓国から、そば粉は中国・ブラジル・カナダの国々から、ぜんまい・しょうが・梅干しは中国・韓国・台湾から、こんにゃくは、中国・インドネシアの国々から送られ、東京港に入ってきています。

◀ 輸入穀物（小麦）

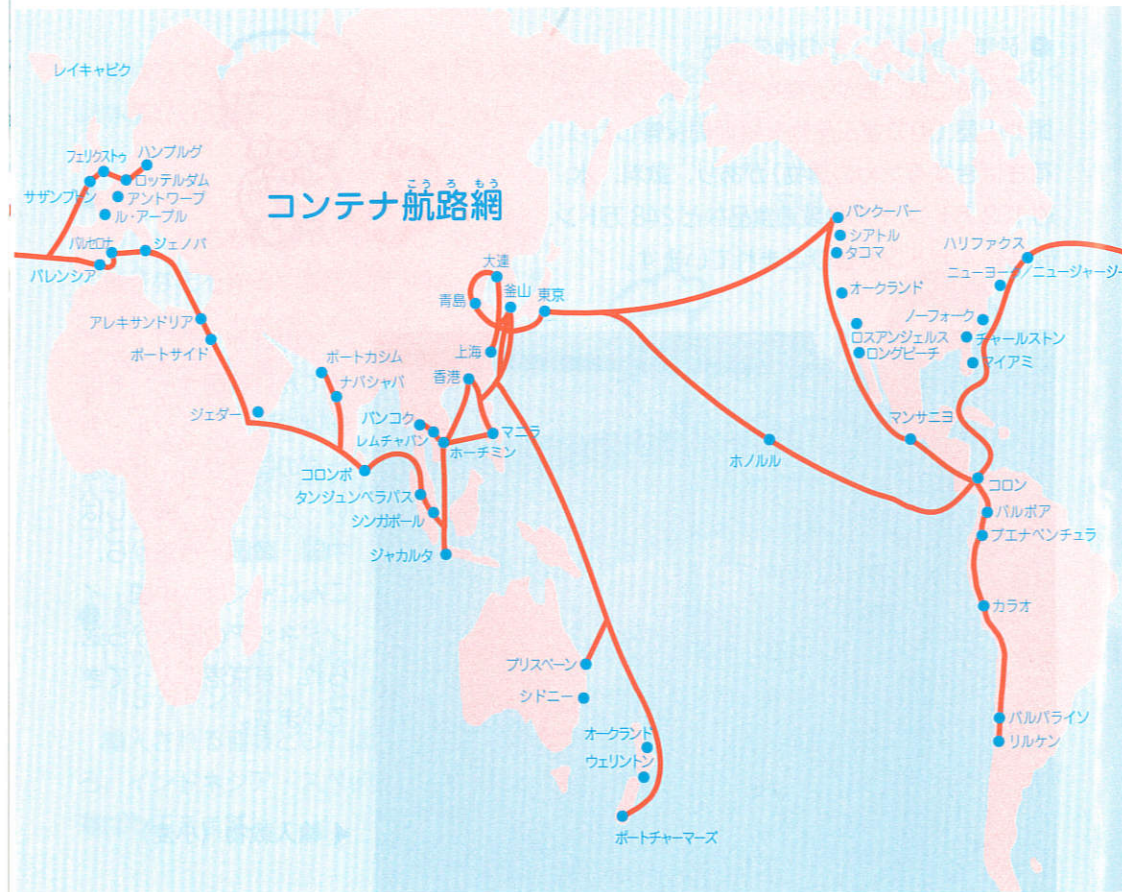
2. 世界と結ぶ東京港

昭和16年5月20日東京港は、外国貿易の貨物を積んだ船が入港できるようになりました。これを「開港」といいます。そのころは、おもに現在の中国と貿易が行われていました。

その後、昭和42年9月からコンテナ船による貿易が始まり、世界各国の定期船が入港する国際貿易港になりました。

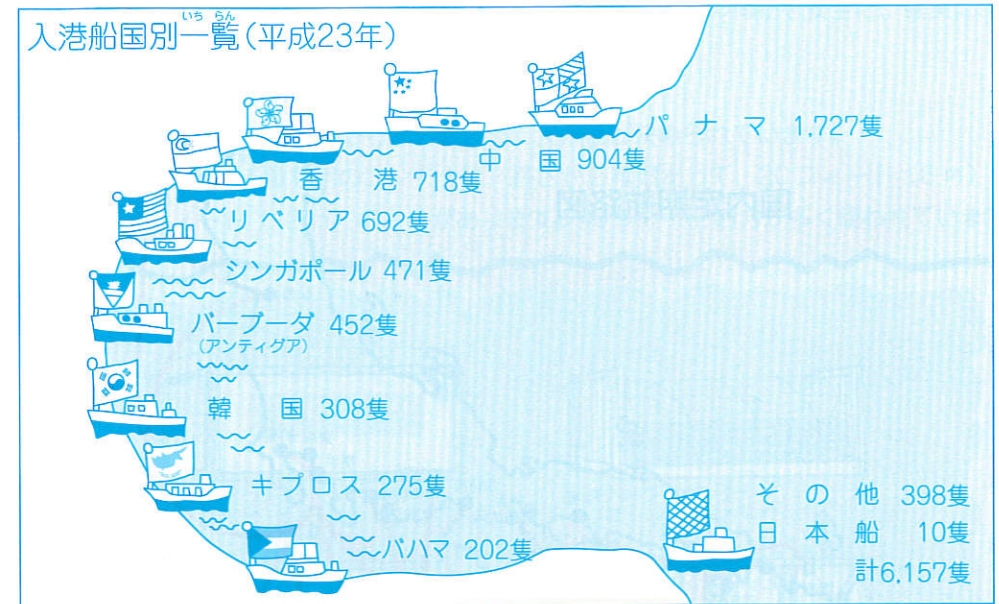
そして、ますます発展を続けるわたしたちの東京港は、アメリカ、ヨーロッパ、アジアなど、世界中の国々と航路（船の通る道）で結ばれています。

(1)世界と結ぶコンテナ航路網



(2)東京港で見る外国船

船は船尾にかならず自分の国の国旗を掲げています。また、日本に入港する外国船は一番高いマストに、日本の国旗を掲げています。これは船のあいさつで、日本の船が外国の港に入港すると、その国の国旗を掲げることになっています。東京港に入港した外国船をおもに国別に分けてみると、次の表のようになります。



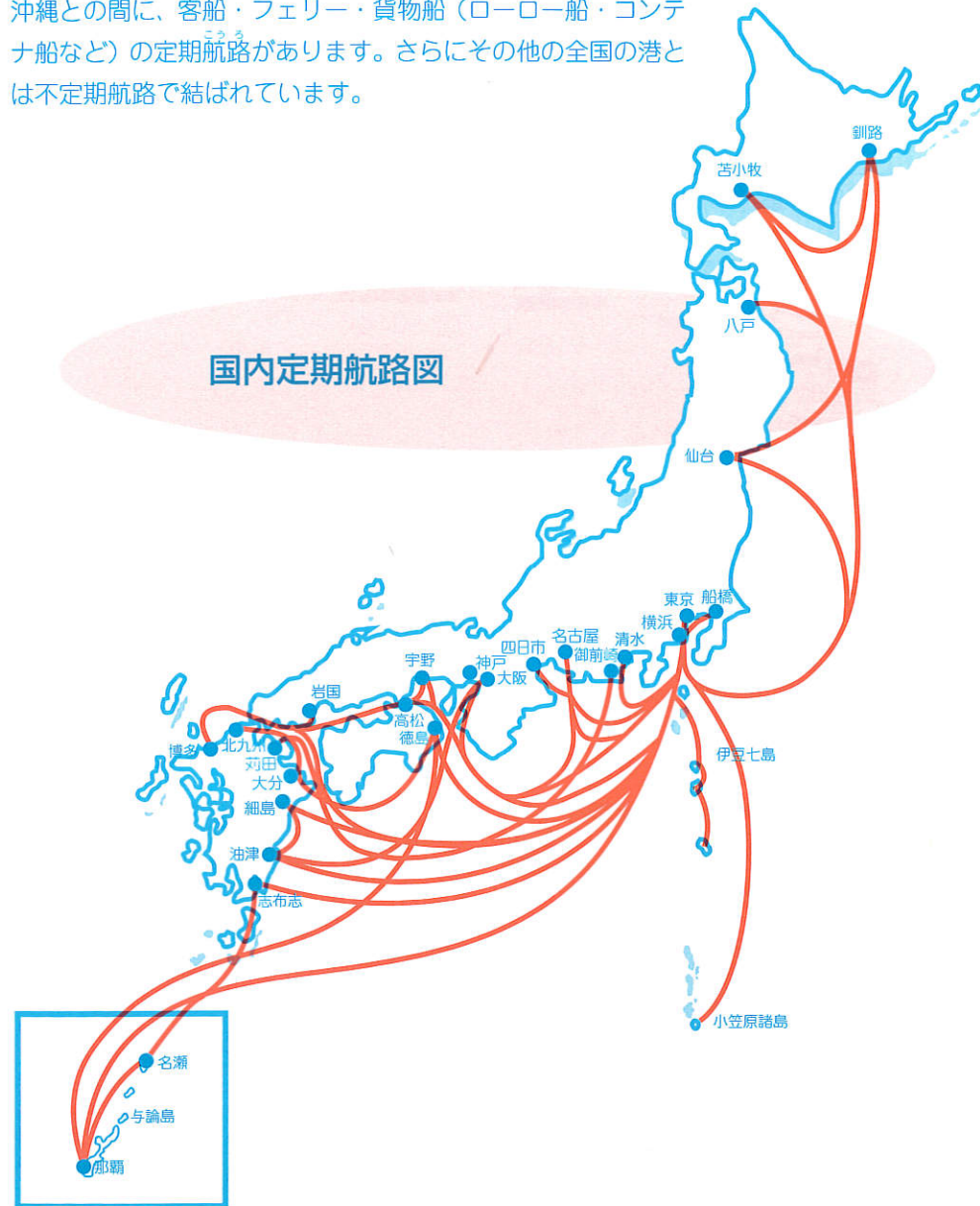
▲晴海客船ターミナルとクルーズ客船



▲青海ふ頭に停泊中のコンテナ船 ⑤

3. 全国と結ぶ東京港

東京港には、北海道、東北、伊豆諸島、小笠原、四国、九州、沖縄との間に、客船・フェリー・貨物船（ローラー船・コンテナ船など）の定期航路があります。さらにその他の全国の港とは不定期航路で結ばれています。



4. コンテナについて

(1) コンテナができる前

金属製の丈夫なコンテナができるまえ、荷物は布の袋や木の箱などに入れられて運ばれていました。しかし荷物の重みで下の物がつぶれる、雨で荷物がいたむ、形がバラバラなため陸揚げに時間がかかる、など多くの問題点がありました。

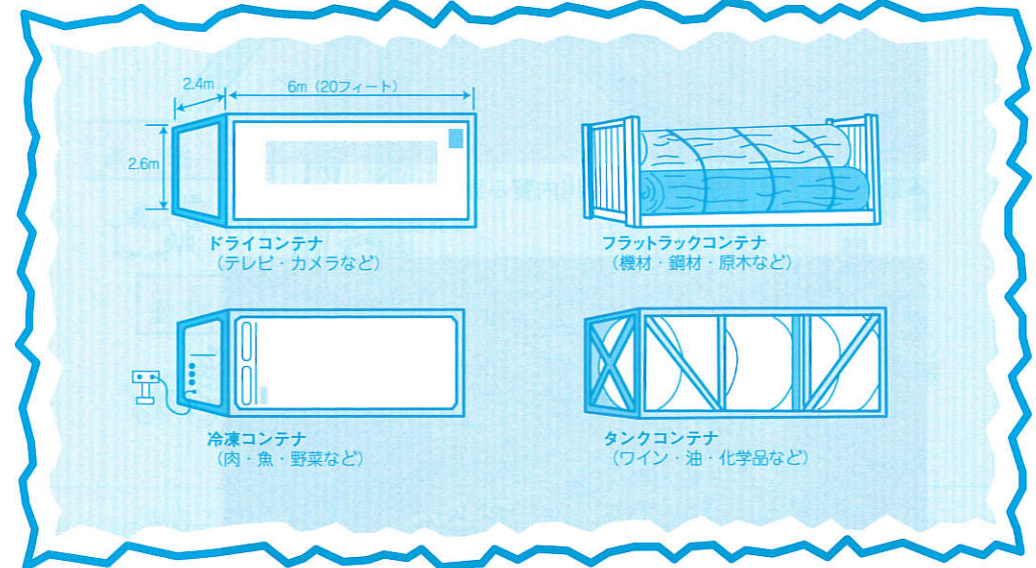
そこで考えだされたのが「コンテナ」です。コンテナは丈夫で、水も入らず、同じ大きさで、2~3週間かかっていた陸揚げがわずか半日ほどでできるようになりました。

こうして今までの船での輸送の問題をいっきに解決し、多くの荷物を安全に、確実に、早く運ぶことができるようになりました。

(2) コンテナとは…

コンテナは世界のどこの国でも使えるように大きさが決められています。

国内で使われている貿易用のコンテナは、長さが2種類あって、20フィート（6 m）のもの、40フィート（12 m）のものがあります。40フィートの方が多く使われています。



(3) コンテナ船

コンテナを運ぶ船を「コンテナ船」と呼びます。大きさはいろいろありますが、現在の東京港に来るコンテナ船のうち、最大級のものは約10万トン、長さは330メートルにもなります。東京港では、大きくなるコンテナ船に合わせて、ふ頭を作っていくことにしています。

5. 東京港のいろいろな施設やそこで働く人々

(1) 荷さばき施設や保管施設

荷さばき施設には、上屋や荷役機械、保管施設には、倉庫、野積場、貯木場、貯炭場、危険物置場、サイロ、貯油施設などがあります。

上屋は、船を係留する岸壁ぞいにつくられています。ここは貨物の分類や仕分け、かんたんな包装がえなどの荷さばきをする屋根付きの仮置場です。

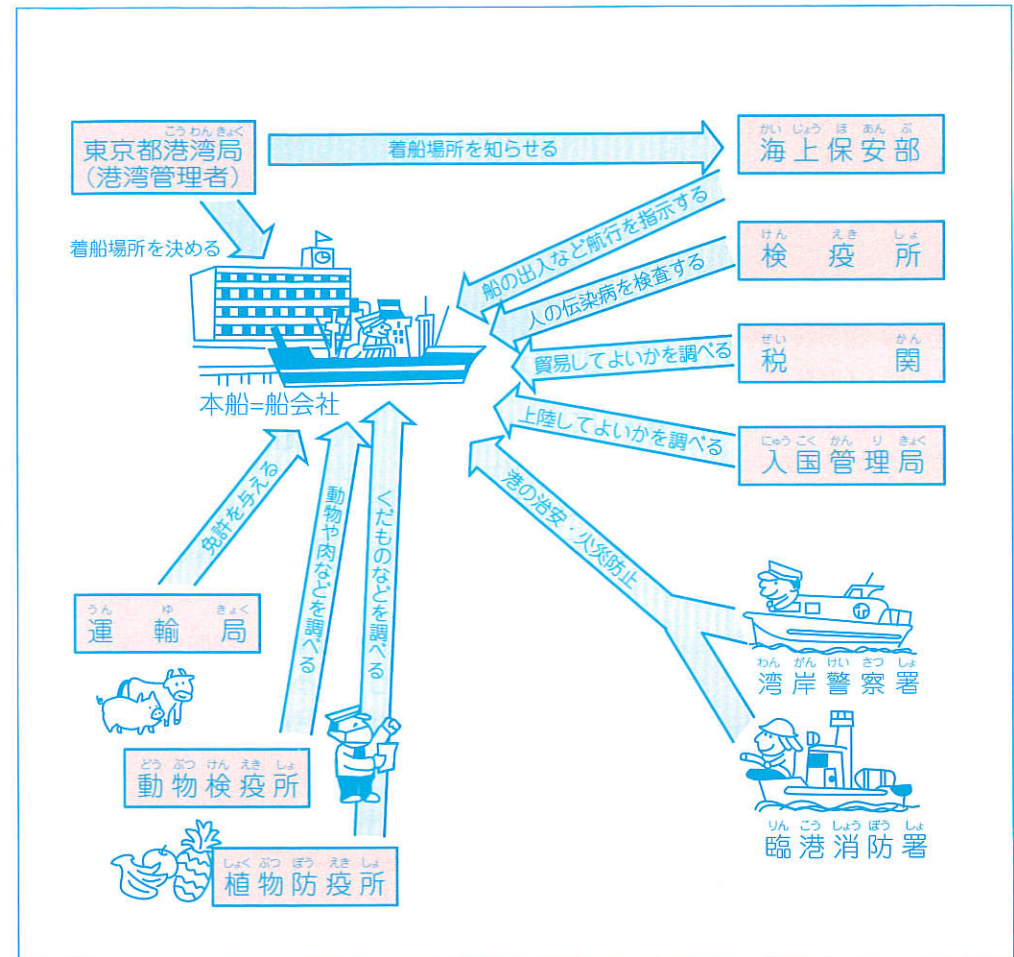


▲最新の荷さばき施設を持つ品川内貿ふ頭
(写真提供) 東京都港湾局



▲コンテナ貨物の荷さばき、保管施設がそろう青海コンテナふ頭
(写真提供) 東京都港湾局

(2) 東京港といろいろな役所の仕事



(東京港の発展をめざして)

貨物船やクルーズ客船が使う施設を計画し、造ることは、「東京都港湾局」などの仕事です。航路の深さを調べたり、海底の土砂をさらう「しゅんせつ」の仕事もします。また、貨物をおろすためのふ頭の使用場所をきめたり、外国の港との交流も深めています。



▲海底の土砂をさらう「しゅんせつ船」

東京港の安全を守り、便利に使えるように工夫することも、大切な仕事の一つです。そのために、いろいろな施設やしくみの協力が考えられています。

〈船の安全な航行のために〉

東京港に船が入り出すときは、「東京海上保安部」(国土交通省)に連絡して、その指示に従って航行や停泊をします。保安部はレーダーや信号灯、航路標識、巡視船などを使って、海上交通の整理をします。



「海の道しるべ」航路標識
(写真は灯浮標)

〈正しい貿易と人々の出入国のために〉

お互いの国の貿易を正しくのばすために、「東京税関」(財務省)では、東京港、成田・羽田空港を出入する品物が、貿易してもよいものかどうか調べます。

また、外国の品物が輸入される時にかかる、税金(関税)の仕事もします。「東京入国管理局」(法務省)は、外国人が上陸してもよいかどうかを、船の中などで調べる仕事をしています。



▲植物防疫所の検査

〈人や動植物の伝染病などを防ぐために〉

外国からコレラやペストなどの恐ろしい伝染病が入らないように、決められた場所で検査するのが「東京検疫所」(厚生労働省)の仕事です。

「動物検疫所」(農林水産省)は、動物や肉・ハムなどの検査をし、植物やオレンジ・レモンなどのくだものは、「横浜植物防疫所東京支所」(農林水産省)が検査をします。

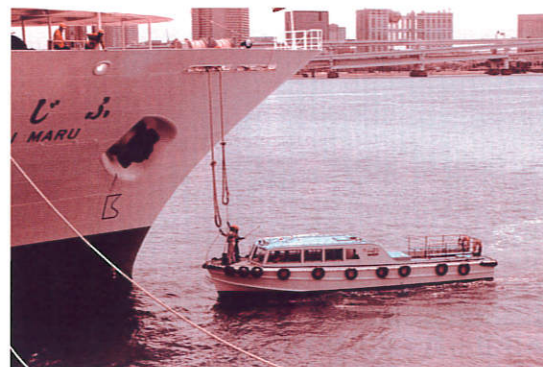
〈港の治安・災害を防ぐために〉

「東京湾岸警察署」・「臨港消防署」(東京都)の船は、いつでも出動できるようになっています。船や港で働く人々が、安全に仕事ができるよう、「関東運輸局東京運輸支局」(国土交通省)では、船員の技術や船などの設備のために、いろいろ指導をしています。

(3) 船の入出港と働く人々

船が入港・出港する時、大きな船が安全に目的の場所へ行けるように船長を助けるのが、「水先人(パイロット)」です。入港時は港の外から決められた停泊場所(バース)へ、出港時は停泊場所から港の外まで誘導します。

大きな船はなかなか小回りがきかないため、決められた停泊場所におさまるように、また、船がスムーズに出港できるように押したり引いたりして補助をするのが「タグボート」です。



▲網とり作業

船は港に停泊する時、太いロープでしっかりつながれて、固定されます。このロープを船から受け取って固定したり、陸地から外したりする作業を「網とり・網放し」といいます。

東京港は24時間、船の入港・出港ができるので、それぞれ24時間出動できるようになっています。

船が入出港する時には、このほかにもたくさんの人々が関わっています。



▲大きな船をおすタグボート

6. 東京港のいろいろな船



▲伊豆七島を結ぶ旅客船

東京港には、伊豆七島、小笠原諸島、沖縄等を結ぶ旅客定期航路があります。外国航路の客船には、飛鳥Ⅱ、ふじ丸、にっぽん丸、ばしふいっくびいなすなどがかつやくしています。



▲外国航路旅客船



▲コンテナ船

貨物船は、荷物の積みおろしに時間がかかるので、コンテナ船が多く利用されてきています。カーフェリーは、自動車ごと人と荷物を運べる便利な船です。



▲ローロー船

ローロー船は、フェリーと良く似た船ですが、フェリーとくらべ、客室がほとんどないのが特徴です。



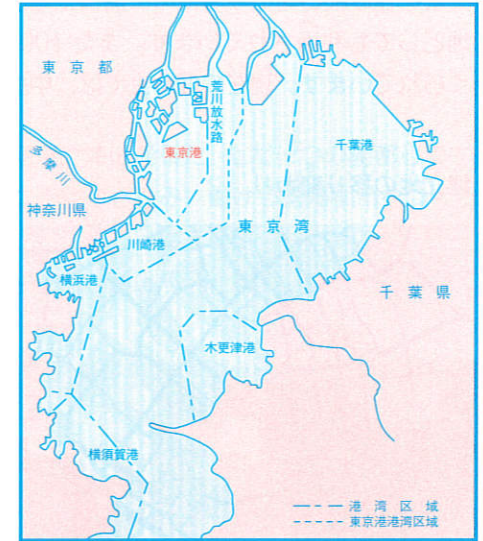
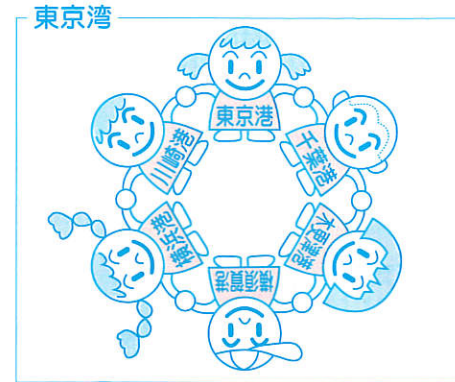
▲フェリー

7. 東京港の位置・歴史

(1) 東京港の位置

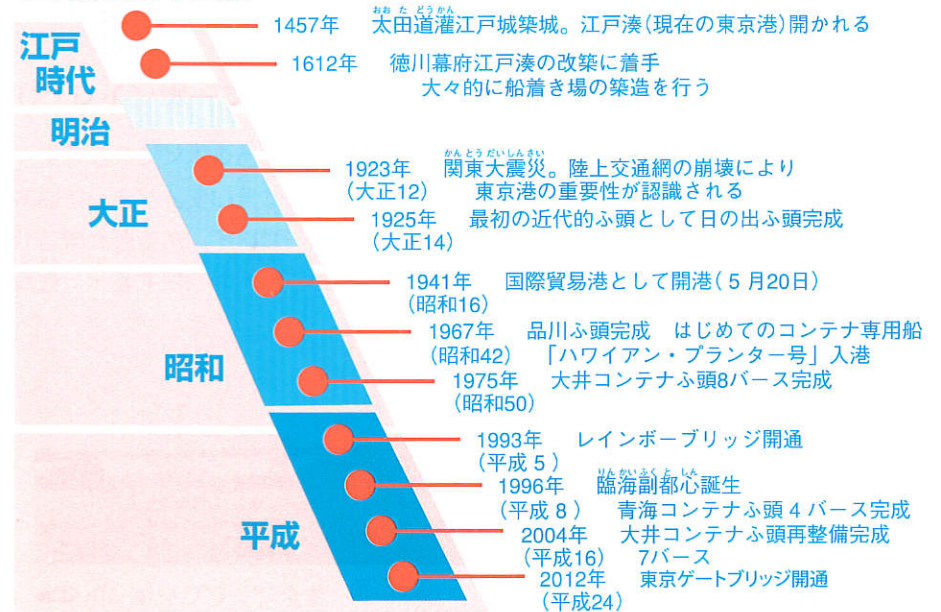
東京港は、東京湾と同じではなく、大きな東京湾の中にある港の一つが「東京港」なのです。

東京湾には東京港をはじめ、川崎港・横浜港・横須賀港・千葉港・木更津港など6つの大きな港があります。



東京湾地図▲

(2) 東京港の歴史



(3) 東京の埋立地

東京港は、明治時代から千代田区、中央区、港区を合わせた程の約4,389ヘクタールの埋立地をつくってきました。この埋立地は、ふ頭や倉庫などをたてるほか、わたしたちの東京を住みよい町にするため、清掃工場、下水処理場、発電所、それに海上公園などの土地としても利用されています。また100メートル幅の東京湾岸道路や新幹線の基地もつくられています。現在の埋め立ては、中央防波堤外側で行なわれています。

埋立地の移り変わり



8. 私たちの東京港

わたしたちは、「より幸せな生活」とともに、「より豊かな心」で毎日を送りたいという願いをもっています。東京都はこのようなわたしたちの願いの実現のために、東京港の再開発を計画し、すでにその計画を進めています。

(1) 臨海副都心

442ヘクタール(東京ドームの約94倍)の、東京で海に面した、ただ一つの副都心です。豊かな緑と水辺を生かした環境のなかで人々が生き生きと住み、働ける国際都市をつくろうとするものです。

都心部と臨海副都心とは、ゆりかもめ、りんかい線、海上バス、都バスなどで結ばれています。



▲東京ビッグサイト

▲台場

▲青海

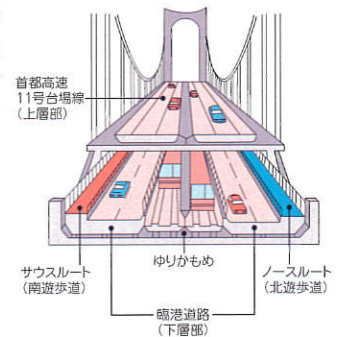
(写真提供) 東京都港湾局

(2) レインボーブリッジ

東京港のシンボルとして平成5年に完成し、都心部と臨海副都心を結んでいます。橋は上下に分かれていて、上部が首都高速道路、下部は一般道路と中央にゆりかもめ専用軌道、一番外側には歩いて橋を渡れる遊歩道があります。



▲レインボーブリッジ全景



(3) 新交通ゆりかもめ

都心部と臨海副都心を結ぶ大切な交通手段として平成7年に開通しました。新橋から竹芝、レインボーブリッジを渡り、平成18年3月に延伸された終点豊洲駅まで臨海副都心を回って16の駅を31分で走ります。

動力は電気を使用しているため排気ガスがありません。また専用の軌道をゴムのタイヤで走るので、騒音や振動が少なく、環境を考えた設計になっています。

そして驚くことに、この乗物は運転手なしで走れるのです。ドアの開閉から難しい運転まで有明にある中央指令室でモニター画面を見ながら全て行なっています。



▲ゆりかもめ

(4) 晴海客船ターミナル

東京港開港50周年を迎えた平成3年に国内外のクルーズ客船を迎え入れる東京の「海の玄関」としてオープンしました。

クルーズ客船が入出港するときには、乗客と都民との出会いと別れの場として、利用されています。



▲晴海客船ターミナル



▲クルーズ客船の出航

(5) 竹芝ふ頭

竹芝ふ頭は、伊豆諸島、小笠原諸島へ行き来する船が発着しています。

島への足の便と島民への生活物資の輸送や島の特産物の受け入れ基地としての機能をはたしています。



▲竹芝ふ頭



▲日の出ふ頭

(6) 日の出ふ頭

関東大震災をきっかけに、大正14年(1925年)に完成した東京港で最も古いふ頭です。国内の貨物を取り扱うに加え、食事をしながら港内遊覧を楽しめるレストランシップや、海上バスの発着所としても利用されています。

(7) 芝浦ふ頭

芝浦ふ頭は、日の出ふ頭の次に古いふ頭で、昭和7年(1932年)に建設されましたが、現在は再開発されて、特に厳しい基準で整備され、大震災などの災害時にはここから緊急物資を陸揚げすることになっています。



▲芝浦ふ頭

はってん (8)発展するコンテナふ頭

昭和42年、我が国ではじめてアメリカのコンテナ船が日本の港に入港したとき、「第二の黒船」として、話題をよびました。

コンテナ輸送は、貨物を世界統一規格（世界中どこでも同じ大きさにした）の金属製の箱に詰めて、海では船で、陸ではトレーラーなどで運ぶ方法です。

貨物を安全にすばやく運ぶコンテナ輸送の窓口になっているのがコンテナふ頭です。

平成22年には4,515万トンの外国貿易貨物を取り扱いましたが、そのうち約95パーセントの4,282万トンがコンテナで運ばれました。このようにコンテナ輸送は、海上輸送の主役として、これからもますます発展していくことでしょう。

①大井コンテナふ頭

昭和46年から出来た東京港で最大のコンテナふ頭です。

現在は再整備が完成して同時に大きなコンテナ船が7隻も着けられるようになりました。それぞれ船が着く場所は決まった会社がつかっています。

長さはなんとJRの有楽町駅から浜松町駅までと同じで約2,300メートルもあります。



▲大井コンテナふ頭

②品川コンテナふ頭

大井ふ頭と違い公共のふ頭なので、いつも決まった船が着くわけではありません。どこの会社の船でもつけられます。

現在では、韓国や中国航路の船が中心です。

そして、ここは昭和42年に日本で最初にコンテナ船「ハワイアン プランター号」がついたふ頭でもあります。

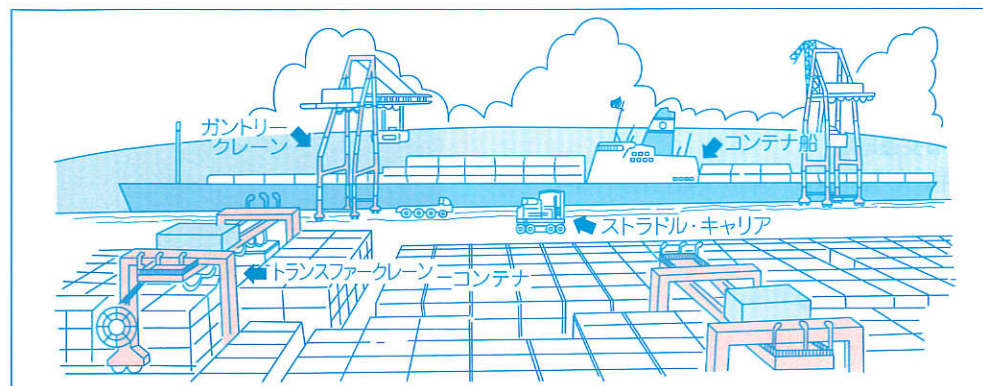


▲コンテナ船

③青海コンテナふ頭

大型コンテナ船に対応できる、東京港における一番新しいコンテナ基地です。

また、ふ頭の背後には、最新の設備を備えた、コンテナ貨物の保管、搬送などを行っている、流通センターや大型倉庫がたくさんあります。



トランスファークレーンやストラドル・キャリアはコンテナを指定の位置に移動させる機械です。

ガントリークレーン

ふ頭でコンテナ船からコンテナを積みおろしするのが「ガントリークレーン」です。通常は2分間に1個のコンテナを扱います。

クレーンの上部にはガラス張りの部分があり、ここに人が入って動かします。大変危険でむずかしい作業なので、免許を持っている人しか動かさせません。



(9) 広がる海上公園

私たちの東京港には、海や緑の自然とのふれあいを少しでも広げようと、港内全域にわたって、38か所の海上公園(平成25年4月現在)がつけられています。利用の目的別に3種類に分かれ、それぞれ都民に親しまれ利用されています。

- 海浜公園……海辺の自然に親しむところ・みんなのふれあい広場。
- ふ頭公園……港の景色を楽しむところ。港で働く人々など多くの人のいこいの場。
- 緑道公園……緑を楽しむところ。港の環境を守る場所。公園をつなぐ緑の散歩道。

〈大井ふ頭中央海浜公園〉

スポーツマインドを満たしてくれるスポーツの森(陸上競技場・球技場・テニスコート・野球場・ゲートボール場)と運河を臨む海浜のなぎさの森に分かれています。

問い合わせ先

スポーツの森 大井スポーツセンター TEL. 3790-2378
なぎさの森 管理事務所 TEL. 3799-0938

主たる交通経路

- ・モノレール(浜松町～羽田) 大井競馬場前下車徒歩8分
- ・JR品川・大井町駅より都バス「八潮南」下車徒歩6分
- ・JR大森駅より京急バス「中央公園」下車徒歩5分

〈お台場海浜公園〉

史跡「お台場」へ続く水辺の散歩道からの都心のながめがとてもすばらしい公園です。ポートセーリングも楽しめます。

問い合わせ先

公園センター TEL. 5500-2455

主たる交通経路

- ・海上バス(日の出桟橋～お台場海浜公園) 下船
- ・新交通ゆりかもめ お台場海浜公園駅下車徒歩3分
- ・りんかい線 東京テレポート駅下車徒歩7分



〈東京港野鳥公園(有料)〉

ネイチャーセンターからは汽水池と淡水池のぞむことができ、野鳥観察のほか自然観察や環境学習にも利用できます。

問い合わせ先 東京港野鳥公園管理事務所 TEL. 3799-5031

主たる交通経路

- ・モノレール「流通センター駅」下車徒歩15分
- ・JR大森駅東口、京急平和島駅から京急バス「野鳥公園」又は「東京港野鳥公園」下車



9. 見学施設案内

東京みなと館

「東京みなと館」では、都民の生活になくてはならない「東京港」の歴史や特長、臨海副都心の様子などが写真や、大型模型でわかりやすく見学できます。

場所も青海フロンティアビルの20階にあり、地上100mからの景色も楽しめます。窓の外には本物のコンテナ船やふ頭が見え、東京港を身近に体験できます。展示内容は、次の5つのテーマ別になっています。



① 東京港のあゆみ

江戸時代から現在までの東京港の姿を大型模型や記録写真で紹介いたします。



② 東京港の姿

東京港の特長などを写真や大スクリーンでの映像で伝えます。

③ 国際貿易港東京港

東京港が他の国と、どのように貨物をやりとりするか、コンテナの模型を通して勉強できます。またこれからの東京港もわかります。



④ 東京港の都市づくり

臨海副都心の便利さと東京港の都市施設を大きな地図で紹介いたします。

⑤ 臨海副都心開発計画

臨海副都心の全体を大きな模型で見ることができます。臨海副都心の地下(共同溝)のようすもわかります。

入館案内

開館時間 9時30分～17時

休館日 月曜日
年末年始
(12月28日から翌年1月4日まで)

区分	個人	団体(20名以上)
一般	200円	160円
小・中学生	100円	80円

(身障者：一般100円、小・中学生 無料)

交通のご案内 新交通「ゆりかもめ」
テレコムセンター駅 徒歩1分
「りんかい線」東京テレポート駅下車徒歩12分
〒135-0064 東京都江東区青海2-4-24
青海フロンティアビル 20階
問い合わせ先 TEL.03-5500-2587 FAX.03-5500-2589